

氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 12-1

問1)

Seiryoku(株)では製品Mと製品Nを量産している。これらの製品は連産品であり、その製造過程は第1工程始点でH材料を投入し、加工して中間製品Mと中間製品Nとなり、工程の終点で分離される。分離された中間製品Mは第2工程、中間製品Nは第3工程にそれぞれ振り替えて、さらに加工して最終製品Mと最終製品Nとなる。以下に掲げる当社の今月の資料にもとづき、各問いに答えなさい。

(資料)

1. 第1工程に関するデータ

(1) 生産データ

月初仕掛品	750kg	(0.4)
当月投入	4,750kg	
合計	5,500kg	
正常仕損	100kg	
月末仕掛品	400kg	(0.6)
完成品	5,000kg	

(注1) 直接材料はすべて工程の始点で投入している。

(注2) () 内の数値は加工費進捗度である。

(注3) 正常仕損は、工程を通じて平均的に発生しており、非度外視法によって処理する。なお、1kgあたり271円の処分価値がある。

(注4) 月末仕掛品の評価は修正先入先出法による。

(注5) 完成品の内訳は中間製品Mが2,500kg、中間製品Nが2,500kgであった。

(2) 原価データ

	原料費	加工費
月初仕掛品原価	231,000円	96,900円
当月製造費用	1,558,000円	1,896,200円

2. 分離後個別費と正常市価に関するデータ

加工費

	見積額	実際額
第2工程	1,880,712円	1,869,288円
第3工程	1,650,688円	1,601,812円

正常市価

	見積額	実際額
製品M	2,050円/kg	2,000円/kg
製品N	1,600円/kg	1,500円/kg

3. その他

第2工程および第3工程には月初・月末仕掛品はなく、また、月初・月末製品もない。

【設問1】

正常市価を基準として連結原価を配賦し、製品Mと製品Nの完成品総合原価および完成品単位原価を計算しなさい。なお、完成品単位原価の計算で端数が生じる場合は円未満で四捨五入すること。また、製品Mと製品Nを合わせたTOMOX(株)全体の利益額を計算しなさい。

【設問2】

生産量を基準として連結原価を配賦し、製品Mと製品Nの完成品総合原価および完成品単位原価を計算しなさい。なお、完成品単位原価の計算で端数が生じる場合は円未満で四捨五入すること。また、製品Mと製品Nを合わせたTOMOX(株)全体の利益額を計算しなさい。

解1)

【設問1】

製品M

完成品総合原価 円

完成品単位原価 円/kg

製品N

完成品総合原価 円

完成品単位原価 円/kg

利益額 円

【設問2】

製品M

完成品総合原価 円

完成品単位原価 円/kg

製品N

完成品総合原価 円

完成品単位原価 円/kg

利益額 円



氏名	
----	--

点数	点/100点
----	--------

各論演習 12-2

問1)

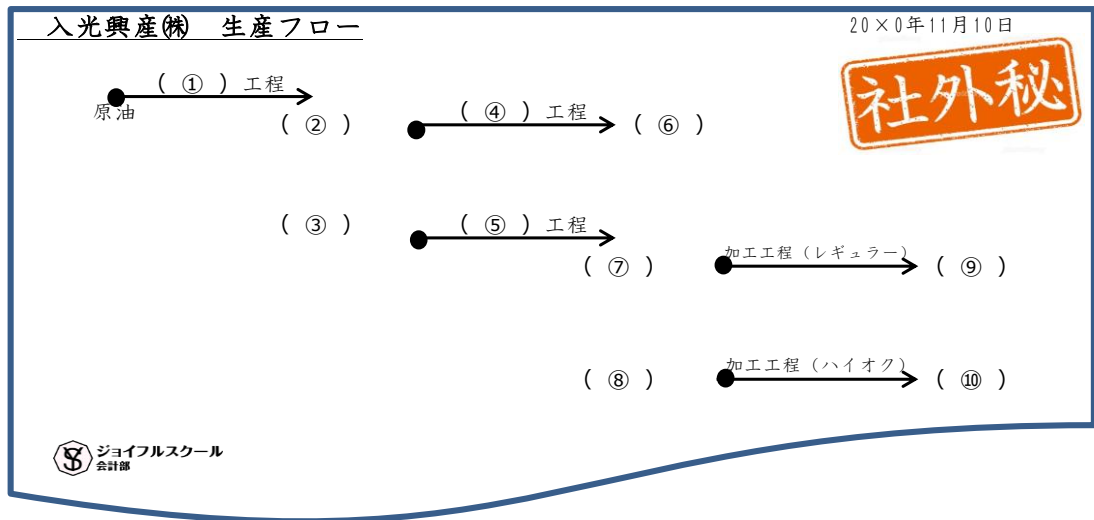
入光興産(株)では、原油を投入して、連産品である製品アスファルト“甲”、製品レギュラーガソリン“乙”および製品ハイオクガソリン“スーパーゼウス”を生産している。その生産プロセスは、まず原油から精製前アスファルトと分離前ガソリンを生産する（加熱工程）。次に精製前アスファルトを精製し製品アスファルト“甲”として販売している。一方、分離前ガソリンから加工前レギュラーガソリンと加工前ハイオクガソリンを生産している（分離工程）。加工前レギュラーガソリンはさらに加工して製品レギュラーガソリン“乙”に、加工前ハイオクガソリンもさらに加工して製品ハイオクガソリン“スーパーゼウス”として販売している。20×0年12月の生産計画および予想されるコストは、次の①～⑤のとおりである。月初・月末の仕掛品および製品は存在しない。なお、最終製品である“甲”、“乙”、“スーパーゼウス”の単位あたり市場価格は、それぞれ、50円、60円および85円である。

- ① 2,250^千ℓの原油を投入して、“甲”を1,960,000単位、“乙”を1,250,000単位および“スーパーゼウス”を500,000単位生産する。
- ② 加熱工程で原油から精製前アスファルトと分離前ガソリンが分離されるが、その分離点までの製造原価は9,000万円である。分離点後のアスファルトの追加精製の費用（個別費）は1,200万円である。これら個別費を費やして製品アスファルト“甲”が産出される。
- ③ 加熱工程の分離点における精製前アスファルトと分離前ガソリンの産出量は、それぞれ、750^千ℓと1,500^千ℓである。
- ④ 分離前ガソリンから分離工程によって、加工前レギュラーガソリンと加工前ハイオクガソリンが産出されるが、その分離工程における製造原価は4,200万円である。さらにレギュラーガソリンの加工費（個別費）は700万円、ハイオクガソリンの加工費（個別費）は900万円である。これら個別費を費やして製品レギュラーガソリン“乙”と製品ハイオクガソリン“スーパーゼウス”が産出される。
- ⑤ 分離工程の分離点における加工前レギュラーガソリンと加工前ハイオクガソリンの産出量は、それぞれ、1,125^千ℓと375^千ℓである。

以下の条件にもとづいて、次の各設問に答えなさい。なお、計算過程で端数が生じるときは、万円未満を四捨五入する。ただし、単価を計算する場合は、円未満を四捨五入する。

【設問1】

原価計算部長の貴方は、新入社員の部下に我が社の生産フローを教えるために以下の図を作成した。() 内に入る語句を【語群】から選び、記号で答えなさい。



【語群】 (A)分離、(B)加熱、(C)精製、(D)加工前レギュラーガソリン、(E)製品レギュラーガソリン”乙”、(F)加工前ハイオクガソリン、(G)製品ハイオクガソリン”スーパーゼウス”、(H)分離前ガソリン、(I)精製前アスファルト、(J)製品アスファルト”甲”

【設問2】

物量(重量)を基準に連結原価を配賦し、各最終製品の予想単位あたり製造原価、および製品別の予想売上総利益を計算しなさい。

【設問3】

分離点における見積正味実現可能価額を基準に連結原価を配賦し、製品別の予想売上総利益を計算しなさい。見積正味実現可能価額とは、最終製品の市価から分離点後の個別費を控除した金額である。

【設問4】

精製前アスファルト、加工前レギュラーガソリン、加工前ハイオクガソリンおよび分離前ガソリンに外部市場があり、それぞれの1キロあたり市場価格は、精製前アスファルト20,000円、加工前レギュラーガソリン15,800円、加工前ハイオクガソリン25,800円および分離前ガソリン10,000円である。分離点における市価を基準に連結原価を配賦し、製品別の予想売上総利益を計算しなさい。

解1)

【設問1】

①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

【設問2】

製品	甲	乙	スーパーゼウス	合計
製品単位あたり製造原価 (単位:円)				-
売上総利益 (単位:万円)				

(注) マイナスの場合は、金額の前に△を付すこと。

【設問3】

製品	甲	乙	スーパーゼウス	合計
売上総利益 (単位:万円)				

(注) マイナスの場合は、金額の前に△を付すこと。

【設問4】

製品	甲	乙	スーパーゼウス	合計
売上総利益 (単位:万円)				

(注) マイナスの場合は、金額の前に△を付すこと。

